

本学々生を対象とした色彩調査

被服の着用色, 嗜好色, 色からえた性格の分析

愛媛帝京短期大学 増 淵 久 子

I 緒 言

色彩の情緒生活に及ぼす影響の一つとして色彩の好みがある。例えば婦人服地は柄のよさにひきつけられて選択することもあるが、生地の色で選ばれることもある。この二つの可能性のどちらをとるかということは時と場合によって違うというような偶然的な現象ではなくそれぞれの人に特有な個性的な態度に関係すると同時に色彩感覚は集団心理的な影響をも多分に受けるものである。そこで同じ年齢層の集団であっても時代の推移によって嗜好が異なり、生活環境によっても影響をうける。

今までに色彩嗜好傾向の調査は従来種々の方法で行なわれているが、今回は本学学生を対象に色彩調査をし、四季別の被服の着用色及び嗜好色を分析し、さらにカラーテスト盤を使用し、色からえた性格を分析したものを検討する。

II 研究 方法

(1) 対 象

帝京短期大学家政科学生(女子 18~20才) 105名を被験者とした。

(2) 時 期

1965年10月1日~10月31日の1ヶ月 晴天の日を選んで12,00

~1:00時迄の昼休み時間に実施。

(3) 試料と問題

被験者各自にプリントしたものを渡し、下記の内容の質問紙に記入させた。

◦着用色調査

あなたが、上着、中着を四季別に着用する場合どんな色の上着 中着を着用しますか。好みの色を選んで記入して下さい。

(〔色名〕 赤, ピンク, 橙, 黄橙, 黄, 緑, 青, 紫)

	種 類	春	夏	秋	冬
上 着	ス ー ツ				
	ワ ン ビ ー ス				
	ス カ ー ト				
中 着	ブ ラ ウ ス				
	セ ー タ ー				
	カ ー デ イ ガ ン				

◦嗜好色調査

下記の色のうち一番好む色を○でかこみなさい。

赤, ピンク, オレンジ, 黄, 黄橙, 緑, 青,
青緑, 紫, 褐

◦色からえた性格調査

代表的な配色をまとめ、無彩色群の中から3種と寒色系から3種と、暖色系から3種、そして補色関係の中から3種を選び、各系列の中で、強・中・弱、の刺激の差が明らかに区別できるように12組の配色を用いて下記のようなカラーテスト盤を使い12組の配色の中から各自の好む4種の配色を選ばせる。

まず第1段階として次の3種の配色の中から1組を選ばせる。

- A—黒と白 (強)
- B—白と灰 (中)
- C—灰と黒 (弱)

そしてこれらの記号の1つを○で囲む。

次には

- D—青と緑 (強)
- E—青と水色 (中)
- F—青と灰 (弱)

これらの中から1組を選んで、その記号を○で囲む

第3段階は

- G—赤と黄 (強)
- H—茶と黄 (中)
- I—橙と灰 (弱)

これらの中から1組を選んでその記号を○で囲む

最後は

- J—赤と緑 (強)
- K—青と橙 (中)
- L—紫と黄緑 (弱)

これらの中から1組を選んでその記号を○で囲む

カラーテスト盤の配色順序



調査の結果を分析すると第1, 第2, 第3表に示すようである。衣服の色は型とともに一番大切な要素で多くの人が深い関心をもっている。そして着用する色は見る人にさまざまな感情を起させるものである。感情は見る人の主観によるが、色の選択にあたっては、それがどのような感情効果を見る人に与えるかを考えて選択すべきである。春は軽快な明るい淡色で黄緑, 緑, 系に主体をおき夏は白を基調として, 紺や黒の寒色系を主体とする。秋は春より少し落つきを求め, くすんだ黄赤など, 冬は防寒的な意味で一般に暗色が良く黒茶色などの季節色にあうような考えをもって選択着用しなければならない。それでは本学々生はどんな色を主体として着用しているか検討してみよう。

まず春着用するスーツは42.0%, スカート31.2%, ブラウス33.3%の青を着用し, 次に多く持っているのはピンクとか黄の淡色系を, またワンピースとカーディガンは, 37.5%, 62.0%のピンクを着用セーターは黄を着用している。ここで言う青はマンセル記号で10B 12/4いわゆる濃い青色である。

また夏は白を基調としているのだろう, 今回は白を入れなかった, 調査色のうち, 上着類のうちスーツ58.1%, ワンピース56.8% スカート 43.7%の青を着用し, 同じく中着類のブラウス 38.9%, セーター47.4%, カーディガン36.5%の青を着用している。これはおそらく青といっても変色系のマンセル記号 19B6/7のものと同様と推測出来る。次に多く着用している色は春と同様, ピンクとか黄系でどちらかという暖色系になっているが学生らしいかわいい色を好んでいるようである。セーター, カーディガンはサマーセーターとしてうすでのものを着用し, 時にはレジャーブームにのって夏山にいく際防寒用として持っているのかも知れない。

秋は上着類のうち, スーツ43.3%, スカート58.8%の青を, 中着

類はセーター34.2%, カーディガン33.0%と上着類と同じく青を着用している, これは春の青と同じ系統のものと思われる。またワンピースは赤50%と秋らしいムードを作って着用している。

冬はスーツ 56.2%, ワンピース 51.6%と赤と同じくセーターも40%と赤が一番多い, 次に多いのは青系でいわゆるこれはピース紺7.5PBぐらいのところである。

配色の問題はなかなかむずかしく一色だけの存在を具体的に考えることはむずかしく, 二色以上を同時に考えることが一般的であろう。今回も調和とか一致, 統一ということを頭に入れて学生達は調査にのぞんだと思う。そこで学生らしさを表現するためにいろいろ配色(着用色)を考えて着用しているように今回はみられたがそれがいわゆる調和しているというのではないのでしょうか。

嗜好色について検討してみよう。嗜好色も年令差, 環境差, 職種別によって異なってくる。成人男子では青, 緑, 系統, 成人女子の場合には赤, 紫, 系統が好まれるというか本学々生は成人男子が好む青が37.9%, 次にピンク 16.4%, 次に赤 9.3%となっている。同じく東京都内における大学(女子)学生嗜好色調査に於いても一番多い色が青(14.0%), 白(14.0%), 黒(13.7%)の順になっているが, やはり本学々生と同じ傾向である。

次に色からえた性格を分析してみよう。

E. Iaensch によれば, 赤-黄系統の色を好む者は外向型で緑-青系統の色を好む者は内向型だという。F. Birren の調査では, 赤は激しい感情家, 現実的な享楽主義者に, 茶色は几帳面で鈍重な人に, 青は精神生活を重視する人に, 黒は表裏二面の性格をもつ人に橙は自主性や個性のない人に好かれる色だという, このような結果がたくさん報告されているが, 色の好みは年令男女によっても違われ, また個人的性質によって決定されるものでもない。各色の象徴

Ⅲ 結 果 及 び 考 察

(第1表) 着用色集計結果

種 類	四季別の着用色率%	赤				ピ ン ク				橙				黄 橙				黄				緑				青				紫			
		春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬	春	夏	秋	冬
上着類	ス ー ツ	13.2	5.6	10.2	56.2	7.5	9.3	4.2	3.2	1.9	1.9	1.4	3.2	6.6	6.6	8.3	8.1	10.4	7.4	11.1	4.8	7.5	7.4	11.1	4.8	4.2	58.1	43.3	9.1	0.9	3.7	1.4	1.6
	ワンピース	12.5	3.3	50.0	51.6	37.5	10.0	8.3	7.7	0	3.3	25.5	0	0	0	0	7.7	50.0	23.3	8.3	7.7	0	3.3	0	7.7	0	56.8	8.4	9.7	0	0	0	7.7
	スカート	11.7	2.7	3.9	7.8	7.5	1.4	2.0	0	10.4	10.9	7.8	3.9	10.4	10.9	7.8	2.0	7.8	26.3	11.7	3.9	10.4	4.1	5.9	31.0	31.2	43.7	58.8	49.4	0	4.1	2.0	2
中着類	ブラウス	17.5	13.0	16.7	9.5	22.8	22.2	10.0	11.9	5.3	0	6.4	4.8	3.5	3.7	20.3	14.3	12.3	18.5	23.3	20.7	5.3	3.7	3.3	2.4	33.3	38.9	16.7	26.2	0	0	3.3	0
	セーター	12.7	0	13.9	40.0	10.9	26.3	5.6	16.4	3.6	0	5.6	3.6	5.5	0	5.6	3.6	32.6	10.5	26.7	7.3	9.9	10.5	5.6	7.3	23.0	47.4	34.2	20.0	1.8	5.3	2.8	1.8
	カーディガン	1.8	4.5	10.0	7.4	62.0	13.6	13.5	3.8	3.2	4.5	2.5	3.8	7.8	9.1	0	3.8	1.6	18.2	15.0	29.5	1.9	9.1	20.0	18.5	19.4	36.5	33.0	29.4	2.5	4.5	5.0	3.8

(第2表) 嗜好色集計結果

色 名	赤	ピンク	オレンジ	黄	黄 橙	緑	青	青 緑	紫	褐
嗜 好 率	9.3%	16.4	5	5	4.2	8.6	37.9	4.3	1.4	7.8

(第3表) 各配色とその性格との関係集計結果

A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L												
黒	白	白	灰	灰	黒	青	緑	青	水色	青	灰	赤	黄	茶	黄	橙	灰	赤	緑	青	橙	紫	黄緑
55%	19.3	25.7	2.1	86.4	11.4	10.7	82.9	6.4	56.4	28.6	15.0												

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0
1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0
1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0
1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0
1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0
1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0
1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0
1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0
1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
1.0	2.0	3.0	4.0	5.0	6.0	7.0	8.0	9.0	10.0

的意味内容を決定するそれぞれの社会の伝統的な文化条件が大きな役割をはたす。

それでは本学々生の性格を第4表の各配色とその性格特徴から分析してみよう。

先ず一番好む色はEの寒色系の青と水色の組合せで86.4%、となって、性格特徴は、冷静、慎重型となる。次に多いのはH、暖色系の茶と黄の組合せで、忠実で、がめつく、よく働くタイプと、好色率はEとHがほぼ同じ率となっている。次に、J、補色系の赤と緑

(第4表) 各配色とその象徴

配色記号	配色	象徴
A	黒と白	陽性、積極的
B	白と灰	中性、常識的
C	灰と黒	陰性、消極的
D	青と緑	勝気、気が強い
E	青と水色	冷静、慎重型
F	青と灰	細心、気をつかう、臆病
G	赤と黄	発刺、やんちゃ、気が若い
H	茶と黄	忠実、がめつい、よく働く
I	橙と灰	観念的、空想的、ぼうっとしている
J	赤と緑	熱情、浮気
K	青と橙	明朗、楽道家、あきらめがよい
L	紫と黄緑	愛情、世話好き、親切

の組合せで、56.4%、これは熱情的で少々浮気、Jに次いでAの無彩色系統の黒と白の55.0%、特徴は陽性で積極的となっている。

以上のように本学々生は全体的に冷静で、忠実で良く働く、学生としてはりっぱな性格の持主で、従って生活態度も学生らしくりっぱといえるのではないのだろうか、

Ⅲ 総括

事物はそれぞれ一定の形と色とをもっている。その性質をとらえようとするとき、形の面からみることも出来るし、色の面からみることも出来るように、それぞれの人に特有な個性的な態度に関係する色彩調査は、色の三属性、被験者の年齢や性別、文化条件といろいろのことにむすびついている。今回本学々生を対象にプリントしたものを渡し質問紙に記入させたものをまとめてみると、着用色のうち青色はマンセル記号10B12/4とし、肌色のオークル系に対して比較的肌にあった色を着用している。また嗜好色を充分とり入れて着用し、いわゆる調和感がみられる。季節色にあった、また年齢層にあった、特色ある配色を考えているように思える。冬の上着類は暖色系の赤を着用しているが、学生としては少しはでな感じがするが、マンセル記号R2/5だったら冬らしく、またおちついた感じで学生としていいだろう。

性格の特徴は、冷静で、忠実な、積極的なところがあり学生としてりっぱな性格であり将来大いに期待出来るのではなかろうか。

参考文献

- 色彩科学協会編：色彩科学ハンドブック
山崎 勝弘 著：配色ノート